

おおい町で「もうひとつの住民説明会」

—長谷川羽衣子さん(NGO e - みらい構想)のメールより要旨

みなさま

5/26、おおい町で「もうひとつの住民説明会」を開催しました。予想に反して、140人以上の人が参加して下さいました。おおい町の住民はおそらく20~30人、声を挙げることに難しい立地自治体としては、画期的な人数だったと思います。他には隣接する地域から参加された方が多かったようです。

はじめに、事故を経験された福島島の女性5人に、体験や想いを語って頂きました。(※お名前は略)

みなさん、率直に自分の気持ちを語って下さり、心を打つお話ばかり、参加された方も時折涙を流しておられました。続いて、元京大原子炉実験所の小林圭二さん、ドイツに詳しい経済学者の朴勝俊さんに見解を語って頂きました。

質疑応答では質問したのは全員おおい町の方だったようです。

おおい町と同じ立地自治体に暮らしておられた、そして息子さんが現在も原発作業員として働いておられる木田節子さんの言葉に、対話を続けていくことが必要だと心から感じました。

「私の息子は原発作業員です。今もどこかの原発で働いています。ある時、私がテレビを見ながら

『再稼動なんて信じられないよね』と言ったら息子は『日本の経済のために原発は必要だ』と言いました。私は息子のマインドコントロールを解きたくて150冊以上の本を読んで息子にも読め読め言って原発がいかに間違っているかこんこんと話しました。それで息子は避難先の家に来なくなりました。それで私も、未だに原発を肯定している息子の電話やメールには一切出ないことにしました。そうすると、新聞やyoutubeで私の活動を見た息子から『お母さん何であんなことしてるんだ』って妹に連絡がありました。娘は『お兄ちゃんか原発で働いているから。お母さんは取り返したと思ってやっているんだよ』って言ったら、息子は『…お母さんにがんばって、って言っていて』と言って切ったそうです。私と息子は今も分かり合っていない、対立したままです。私の活動は息子を取り返したくてやっているんです。それまであきらめず続けていきます。」

ご協力頂いた皆さま、参加して下さいました皆さまありがとうございました。これからも対話を続けて行きたいと思っております。

(ここまで)



大飯原発再稼動絶対阻止!

扇町公園から 長蛇のデモ

◆五月二十七日「あかんで！大飯・伊方の再稼動五・二七関西行動」の集会和デモが行われた。デモは扇町公園から西梅田まで解散後、有志は関電前行動へ。大阪平和センター傘下の自治労・民間労組、市民団体など二二〇〇名が参加、大きな行動に。

午前中には「基地も原発もいらぬ！五・二七講演集会」が開催された。

現地・東京・大阪 連日、激しい攻防

◆関電前では、最低でも週に一回は座りこみ等の

行動が行われている。

◆五月三十日、橋下ら関西広域連合が声明。マスコミは一斉に「稼動容認」と報道。

◆六月一日首相官邸前で二七〇〇名が抗議。

関電前では千名が抗議。

◆六月三日、福井市中央公園、各地から五四〇名参加、集会和デモを行う。おおい町でもフィールドワークとシンポが行われ二五〇名が参加。

◆六月五日「さよなら原発一〇〇〇万人アクション」が呼びかけた署名が七百二十万筆に。加藤登紀子さんなど参加の六日の集会には三三〇〇名。

◆六月七日、「原発いら

ない福島の人たち」が呼びかけ、官邸前に数百名が集集。要望書提出、ダイイン、そして会津の民衆踊り「かんしょ踊り」。

◆六月八日野田が「再稼動宣言」の記者会見。数千人が官邸前におしかけ、国会前まで連なって抗議。

◆六月十日福井県原子力安全委開催。既に福井県知事もおおい町長も再稼動に同意。この安全委員会を通過させ再稼動まで一直線というシナリオ。委員は福井大学名誉教授など「専門家」の集まり。委員と野田に「再稼動するな」のメールやフックスを集中しよう！

6/17 福井現地へ

◆原発反対福井県民会議（中嶋哲演代表委員ほか）と、福井県内の市民グループが力を合わせて、六月十七日再稼働阻止をめざして集会を開催。

《いのちが大事 今なぜ再稼働？》

ふくいであつなごろう

◇十二時〜十五時

集会とパレード

◇福井市中央公園

◇主催 ふくいであつなごろう実行委員会



昨年のもんじゅ闘争